

# 平成30年 第3回滋賀会研修会

## 「高取山ふれあい公園」

報告者 小西

- \*日 時：平成30年10月28日（日）9：20～16：30
- \*場 所：高取山ふれあい公園（犬上郡多賀町藤瀬）
- \*天 候：晴れ
- \*参加者：高橋、平田(2)、高田、関澤、馬場(フォレストワーカー)、小西 計7名
- \*行 程：近江鉄道多賀大社前駅 9:20 集合—高取山ふれあい公園 9:45  
公園発 10:00…(ドングリコース)…展望台 13:10（昼食）13:50…  
高取山山頂 612m 14:00…林道合流 14:40…公園着 16:10 解散

今回の研修場所は、緑の少年団指導者研修会の会場の一つである高取山とし、あまり人が利用していない山頂を巡るコースを歩くこととしました。参加者に会員の中川さんからの紹介でフォレストワーカーの馬場さんが加わり、初心に戻った気持ちで一つ一つ確認しながらの研修が行えたように思います。ホオノキの大木などが育ち多様性も豊かで、様々な果実・虫こぶなど秋ならではの出会いも多かった研修会でした。以下、写真に収めたものを順に紹介します。

### 1、コウヤボウキ

キク科コウヤボウキ属

小低木。経済性のある竹が使えない高野山の山寺でこれの乾燥したものをまとめて縛り、箒とした。



### 2、フユイチゴ

バラ科キイチゴ属

常緑のキイチゴの仲間でもっとも普通。秋に白い花を咲かせ、11月頃に赤いイチゴ果を熟す。甘くて美味。

### 3、センブリ

リンドウ科センブリ属

全草に強い苦味があり、苦味健胃薬として利用。千回振り出してもまだ苦いところからセンブリ。花崗岩質などの貧栄養の明るい草地に多い。



### 4、ツルアリドオシ

アカネ科ツルアリドオシ属

梅雨の頃に白い筒状の花を2つ並べてつける。2つの花で1つの実になる。実の頂に2花の跡が残る。「一両」の縁起もの。

### 5、ナラハヒラタマルタマフシ

ナラハヒラタマルタマバチの寄生による虫こぶ。コナラなどの葉の表裏の葉脈上につく。ハチは虫こぶが地上に落下してから脱出する。つかれた葉はコナラ。



### 6、ルリタテハの幼虫

サルトリイバラなど旧ユリ科が食草のタテハチョウの仲間。

## 7、ナツハゼ

ツツジ科スノキ属

落葉低木。葉や枝に硬い毛が多く、手で触るとざらつく。7月頃、赤みを帯びた黄緑色の壺状の花を下向きにつける。実は秋に黒く熟し、甘酸っぱい。



## 8、カマツカ

バラ科カマツカ属

葉はやや硬い質感で、洋紙質と呼ばれる。短枝がやや発達し、数枚の葉が束生する。果柄にいぼ状の皮目がある。枝に粘りがあり、鎌の柄や牛の鼻輪に利用。別名「牛殺し」。

## 9、コバノガマズミ

ガマズミ科ガマズミ属

落葉低木。葉の両面に星状毛があり、触るとふわふわする。ガマズミの仲間では唯一葉のつけ根に針状の托葉を持つ。赤く熟した実は酸っぱい。果実酒に利用される。



## 10、ヤマナシ?

バラ科ナシ属

葉の鋸歯、葉の大きさ・形、葉柄の長さからヤマナシと推定したが、合っているだろうか？ ナシの原種。

## 11、イチイガシと誤看板

ブナ科コナラ属

九州など暖かい地方に成育し、このものは植栽。葉裏に黄褐色の毛が密生し、やや茶色っぽく見える。

材は優秀で、「一位櫨」の名。

右のような誤看板が立ててあり、樹名板を作る時はしっかり確認すべきである。ちなみに近くにカシワの看板もあったが、植えてあるのはカシワでなく、ナラガシワか雑種と思う。



## 12、ヌルデ

ウルシ科ヌルデ属

青空に映えるヌルデの紅葉。遠くからでも、葉軸の翼と小葉の鋸歯が確認できればヌルデと分かる。



## 13、ヤマコウバシ

クスノキ科クロモジ属

枝や葉をちぎるとよい香り（山香）。冬でも枯葉が木についたまま。花芽・葉芽でなく、混芽のみ。雌雄異株だが、雌株しかない。などの特徴を持つ。若葉は保存食「トロシバ」。



## 14、シキミと虫こぶ(シキミハコブフシ)

マツブサ科シキミ属

葉は枝先に集まってつく。その先にあるのが花芽で、早春に黄白色の花をつける。葉をちぎると甘い芳香がある。この匂いをイヌ科が嫌うので土葬の際死者のまわりに入れた。全草猛毒。特に実。葉につく虫こぶはシキミタマバエによる。

## 15、ホオノキ（大木）

モクレン科モクレン属

葉は単葉としては日本産樹木最大級。  
5月に径 20cm を超す大きさの白い花  
をつけ、あたりに芳香を漂わせる。葉  
は朴葉味噌や朴葉餅などに利用。材は  
軟柔で狂いが少なく、下駄や刀の鞘な  
どに使われる。



## 16、スギヒラタケ？

キシメジ科スギヒラタケ属

スギの古い切り株などに重なり合って発  
生する白いキノコ。以前は優良な食菌で  
あったが、2004年日本海側を中心に腎臓  
疾患の人がこのキノコを食べて脳炎にな  
り、死亡する例が多発。以降毒キノコと  
される。



展望台にて。彦根市を背景に。竹生島、多景島、沖島、三上山も。



展望台から北に目を転じると、霊仙、伊吹、金糞の山々が。ここで昼食。

## 17、ヤブコウジ

サクラソウ科ヤブコウジ属

常緑の小低木。葉は枝先に3~5枚輪生状につく。11月頃赤い実をつけ、「十両」として縁起ものとされる。



## 18、キッコウハグマ

キク科モミジハグマ属

山地の木陰に生える。葉は亀の甲羅の形に似る（亀甲）。花は頭花で3個の白い小花からなり、雌しべは3つある。花冠の先はねじれており、江戸時代の参勤交代で槍の穂先にヤクという動物の毛で作った飾りをつけてそれを回しながら進んだ。ヤクの毛を白熊

（はぐま）といい、回した時の形に似ていることから飾りをはぐま、この花の仲間にもハグマの名前がつけられた。先の尖った蕾のようなものは閉鎖花。

## 19、オニグルミの葉痕

クルミ科クルミ属

落葉樹は離層ができて葉を落とすと、いろいろな形の葉痕が現れる。オニグルミの場合はヒツジの顔に似る。2つの目と鼻の部分は維管束の痕。



## 20、ミヤマガマズミ

ガマズミ科ガマズミ属

コバノガマズミに比べて、葉は大きく鋸歯が粗い。表面の毛もほとんどなく、光沢が強い。托葉もない。実は同じように果実酒に利用できる。



## 21、ヌルデの実

ヌルデは実が成熟するとそのまわりに白い物質を分泌する。成分はリンゴ酸カルシウムで嘗めると塩辛くて酸っぱい。地方によってはこれを塩の代用とし、シオノキと呼んだ。鳥はこれから塩分補給をしている。



## 22、ヌルデの虫こぶ

ヌルデの葉にはいくつかの虫こぶがつき、これはその一つヌルデミミフシを割ったもの。この虫こぶはお歯黒を作るのに利用される。中の黒っぽいものは羽化したヌルデシロアブラムシ。この後抜け出し、コケ類に移る。

### 23、キミズミ

バラ科リンゴ属

冷温帯のやや湿ったところに生育。葉は不分裂葉から3つに分裂したもので多型。3分裂葉の場合ミツバカイドウの別名が。実から別名コリンゴとも。普通実はこの写真のように赤く熟すが、このものは黄色く熟すので「黄実酸実」。



### 24、ナツツバキ

ツバキ科ナツツバキ属

冷温帯に生育するもので、このものは植栽。夏に白い一日花をつけ、無情に散るところから、釈迦の涅槃時にその周りにあった沙羅双樹の代用として寺院に植栽される。樹皮が剥がれて美しい斑模様になり、床柱などに利用される。

### 25、ネズミサシ

ヒノキ科ビャクシン属

アカマツが生えるような貧栄養の花崗岩地などに多い。ネズミの通り道に置くと侵入を防ぐほど葉が鋭いというのが和名の由来。雌雄異株。写真は若い球果と成長した球果(球形で合着した白い線が見えるもの)。



左の写真はネズミサシの虫こぶで、チョウチンタマバエによって作られる。名前は**ネズミサシメチョウチンフシ**。

今回の研修コースは高橋さんのお墨付きがいただけました。次年度の研修場所としては？